

清流

題字：芳野 充

平成30年10月30日
第22号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

子どもは大人がするようにする

「子どもは大人が言ったようにはしないが、大人がするようにする」

この言葉は、「清流」の題字を書いてくださった芳野充様（元小学校校長）が、現役校長時代に教員の先生方によく話をしていた言葉だそうです。

また、現役をしりぞいたいまでも芳野充様は、「教師勉強会」という私塾を開き、子どもたちが身につけて欲しい「思いやりの行動」を、教師みずからが具体的な言葉や態度で教えることが大切です、と現役教員の先生方や教頭先生、校長先生方に伝え続けています。

「子どもは大人がするようにする」。いつもこのことを実感するのですが、少し前にこのようなことがありました。食事の際、妻が家族みんなが大好きな餃子を焼いてくれました。焼きたての餃子がつまった円形の鉄なべがテーブルにおかれると、息子が「いただきます」を口にした直後、われ先にと自分のお皿に餃子をならべる姿をみて、「いやしいことをするな！」とわたしが注意をしました。しかし息子はそしらぬ顔で、おいしそうに餃子をほおばっておいりました。

ところが別の食事の日に、これまた家族みんなが大好きなから揚げがでたとき、気づけばわたしがわれ先にと、から揚げを自分の皿にのせているではありませんか。そのとき冒頭の言葉があたまをよぎりました。わたしは小声で、「子どもは大人がするようにするんやね」と妻にいうと、妻からは「あなたはいつもそうよ。自分が好きなものは、子どもより先にまず自分からよね」とバツサリ。

思いやりの具体的行動をあらわした「日常の心がけ」の十九番目には、「ずるく、いやしい行為はつつしむ」とあります。まさにこのことを象徴したようなわたしの行動を反省してからは、食事の際にはまず、子どもや妻からよそうことにしております。

そしてさいきん、われ先にとわたしのマネをしていた息子が、先にご自分のお皿ではなく、妻のお皿におかずをよそう姿をみるようになりました。子どもは大人が言ったようにはしないが、大人がするようにする。これからも、肝に銘じて行動しようと思います。

加来 寛

